

がわかった、などというの**は**気の毒です。どうすれば早く見つかると思えますか？

友田

うーん、むずかしいですね。咳が出てても、単なる風邪だと思ふ人のほうが多いでしょ。自分も最初、風邪だからた

石川

いしたことないや、って思ってたんです。ひとつには、健診があればいいですよ。[健診に行こう]

新津

というパンフレットを作ったらどうでしょうかが？  
素直に行く人もいるけど、そんなの関係ないや、っていう人のほうが多いんじゃないの？でも結核は人につうつす病気

星野

なんだから行ったほうがいいよね。  
公園を回ってる巡回の人からも「健診に行つた方がいいですよ」って言われたし、俺たちは、Tシャツとタオルもらせるから、っていうので行つたけど（笑）。どうせ何でもな

清水

いと思つて安心して受けてたんです。  
一度結核にかかると、心配だから行こうかなと思つけど、そうじゃなければ医者なんて行きたくないもんね。

## 治療について（毎日服薬確認：ドッツ）

石川

治療についてはどうですか？結核は長く治療をする病気で  
すよね。薬を半年以上毎日飲み続けなければならぬ。  
入院して毎日飲むか、あるいは毎日保健所に行つて飲むと  
か、ドッツといつて毎回誰かが飲むところが確認するとい  
うことになっているのですが、みなさんはどうですか？薬  
というものは自分で飲めるものなんですか？それとも、  
大体途中でやめちゃうものなんですか？

倉田

ふつうの人だったから途中でやめてしましますよ。自分は  
保健所の保健師の前で毎日飲んだけど。あれはひじょうに  
よかったです。

石川

どういうところがいいんですか？薬を飲むのをいちい人  
が見るなんて患者を信用してない、非人間的だという意見  
もあるんですよ。

友田

俺は、非人間的だと思わない。正しいと思うな。  
自分も、毎日保健所行つたほうが飲みます。他の話もでき  
るしね。

中村

やっぱり、誰かの目の前で飲まされたほうが確実だと思  
います。

石川

自分のことを信用してない、と思わないですか？

清水

前のとき、途中でやめちゃったからね。

星野

リウマチで立ったり座ったりもできないうらいで、結核が  
治らないとリウマチの治療にいけないうらいうこともあつ  
たし、痛み止めもらつて歩けるようになったら、結核の  
薬飲みに行くのも運動になつたからね。

石川

新津さんはどうですか？そういう治療の仕方は？

新津

自分の入院した病院では薬の殻を集めにくるんです。飲ん  
だかどうか確かめてるんですね。自分で飲んでるときは  
いい加減になつたり、時間がずれたりすることもあります。  
薬は一日17錠もありまからね、いやになつちやいますよ。

倉田

自分は今いろいろな人が入つてくる施設（寮）にいるんです  
けど、いろいろな人がいてうるさいから、結局毎日保健所に  
行つて飲むほうがストレス解消になつたかな。アパートに

一人で住んでたら飲めなかつたと思います。好きなことし  
ちゃつたんじゃないかなつて。

石川

清水さんは今どんな所に住んでいるんですか？  
自分も宿泊所で団体生活です。みんなの前で薬も飲んでま  
す。月曜から金曜までは保健所に都営パスで通つてます。

清水

### けつかく ちりょう まな 結核の治療から学んだこと

石川

みなさん、結核が治つてたいへんよかつたと思つたんですけ  
ど、結核になつたことは不幸だつたけれど、毎日薬を飲ん  
で、こんなことが人生勉強になつたということにはありませ  
んか？

清水

今までいい加減なことばかりしてたんだけど、病気の治療  
で、ふつうのことがふつうにできてうれしかつたです。

石川

結核になつて得をした、とでもいうことでしようか？  
保健師さんや周りの人は優しくしてくれるし。会社の人は  
何もしてくれないですよ。でも二度と病気になるんじつといは  
思わないけどね。

倉田

新宿に戻つてきてヘルニアでかかつてる病院の院長さんに  
「倉田さん、昔だつたら、結核は不治の病でもうあんたはい  
ないよ。」って言われたんだ。ほんと、俺、一回死んだと。  
もう一回死んでるから、これからは生かしてもらつてるか  
ら。人生がらつと変わりました。恥ずかしくもなんともな  
いです。保健所が世話してくれた治療にすごい恩義感じて  
ますよ。福祉というのは自分からは関係ない、つて思つてた



スケッチ by 上釜一郎

んですよ。前は、  
あと何ヶ月かしか  
命がない、という  
ようなぎりぎりの  
人に福祉というも  
のがあるんだと思  
つてたんですよ。

友田

入院で隔離されると思つちやう人も多いよね。昔みたいに  
長く入院してないで、ドッツで保健所に通うというのもの  
いよね。

清水

薬飲みに通つて、ちよつとした話のできたのもよかつたよ  
な。おかげで人とともに話が出来るようになったみたい。  
病院に入つてもすぐけんかして出てきてしまつて患者さんがい  
て、新宿保健所では、その人が住んでるガード下のダンポー  
ルハウスに毎日薬をもつていって飲んでもらつています。

倉田

その人はほんとに病気のこわさがわかつてないです。  
群馬県の伊香保の病院に行つたときに、結核で17年入院し  
てる人に会いましてよ。どんな薬飲んだつて治らない  
(多剤耐性) 結核って言われてるんだつて。自分は一回中断  
しやつたから、多剤耐性になつたら困ると思つたから、  
こんどはちゃんと薬飲みましたよ。

石川

一応治療は終わつていゝんだけれど、いくら治療しても治  
らない人が日本には500人くらいいます。それは、本人の  
せいばかりでもありませんが、本人の薬の飲み方がいいが  
げんだつたことが主な原因です。新津さんはドッツミレー



スケッチ by 上巻一郎

イング（薬を飲んで患者さんの集まり）に参加しているのですか？

新津 いえ、自分入院中に全部治療が終わって、保健所には行ったことはないです。

石川 そういう治療もあります。ただ、最近ではできるだけ早めに退院し、通院することが多いです。退院してから住むところがどこか、どうやって薬を飲むのか、毎日薬を飲みに通うのが、通うとすればどこに通うのか、人によっていろいろな可能性がります。また、どうしても人といっしょにやれない患者さんもいて、すぐけんかしゃうとか、酒が飲めないのがつらいとかね。さきほど言ったように、新宿保健所では、どうしようもない人には、路上で薬を飲んでもらおう（青空ドッツ）もやっています。

倉田 そういう人は酒飲むほうをとるんだろうねえ。我々は薬のほうをとるけれども。医者にも酒は絶対飲むな、と言われました。

石川 薬飲むだけでも相当肝臓に負担がかかりますが酒は出来るだけひかえたいですね。たばこもよくないんです。

清水 自分は最初のころ、肝臓が悪いからって、一旦薬を止められたことがあります。

友田 酒は別に飲んでもいいけど、たばこだけは駄目って言われ

ました。酒は適度であればね。新津さん、そんなに長く入院して、酒は大丈夫でしたか？

新津 自分は酒は飲まないです。

石川 住む所があるというのはやっぱり違いますか？

友田 全然違います。

新津 アルバイトしていても安心です。

石川 路上にいたり、住む所がない人っていうのはいろいろな意味ですごく不利なんですよ。

全員 そうです、そうです。

石川 それがかし、住むところを確保するのが大変なんじゃないですか？そして、住む所がないと福祉も受けられないのですよね。

倉田 病気だからとらとんでもなくアパート借りなさい、とはならないです。自分は新宿のドヤに1年6ヶ月いました。朝は6時から外へ出なさいと言われるし、夜は8時には電気消さなさいといけないし、ガスも使ったらダメで。ドヤから保健所に通って薬を飲んでました。結核の治療が終わって、福祉の担当さんに「住む場所がかわるよ。」と言われて更生施設に移りました。お医者さんが「仕事やっさいよ。」と云うから仕事して2年になります。腰の治療はまだやってます。もう難しい仕事はするな、と言われて負担の軽い仕事で一日4時間仕事をしています。今はアパートに住んでます。契約金とかは全部福祉が出してくれました。

保健師 新宿保健所では、毎日保健師に会って薬を飲むドッツだけではなく、治療中の患者さんが集まって話し合う、ドッツ

ミーティングというのをしています。結核にかかった人が自分の経験からこうやるといいよとか、こんなことがよかったですとか発言することが大切なんです。

石川

昔はお医者さんが「棚からぼた餅」式に「この薬飲めば治るから、飲みなさい。」と言っただけだったんですが、いまは患者さんにも参加してもらおうようになりました。みなさん、結核にかかったことは不幸なことなんだけれど、それを逆手にとって、いい社会を作るためのステップだと考えて

どんだん発言してください。

ほんとにそう思います。自分の人生は変わりました。

こういうのがほんとの福祉ですよ。お金だけではない。

友田

路上生活してる者には結核が多いんですよ。そして、お互い病気をうつし合っているのかな？

石川

結核は他の人につづるので、やはり自分がちゃんと治しておかないとね。私たちは、誰の菌と誰の菌が同じである、という

ことも調べているんですが、新宿の路上生活の方と川崎

の路上生活の方の菌が同じだったり、そして、マンガ喫茶を

使っている若者の間で集団発生があったり、路上生活の人の

結核というのはお互い同士や他の人に感染が広がっている

と考えています。広がらないようにするためには、一人一人を

ちゃんと治すということが大切なんです。

自分は一応治っているつもりなんですけど、またうつる

可能性はあるんですか？

一度感染した人は二度目は感染しにくいけれど、絶対感染

しないわけじゃない。ただ、いちばん多いのは、前の結核

石川

が完全に治っていなくて再発するという場合です。

自分で調べる方法というのはいないんですか？

それはやはりないんですよ。なので、1年に一回とか定期的にチェックすることが大切なんです。いつも行っている病院で前のレントゲン写真と比べてもらって、影が悪くなっているか、新しい影ができていないか。菌が出ていないかなど調べてもらった方がいいです。、糖尿病なんかがあると、結核が再発しやすいです。ところでみなさん、結核だとわ

かって、何が困りましたか？

会社で「もういらねえ。」と言われました。

新宿でサンドイッチマンやってて、結核があるのに、医

にも行かず、福祉も受けないで我慢して我慢してとうとう

路上で倒れ、亡くなってしまった方がいます。体の

具合悪いんだけど、自分は福祉の世話になれると思わない

んじゃないですか？

そう、自分は福祉なんて関係ないと思ってました。もっと

もっと困った人がいて、その人たちのためのものだと思っ

てました。新宿へ来て、あっち行きなさい、こっち行きな

さいと言われて、結局、福祉事務所や保健所のお世話にな

ってよかったですよ。

みなさん、きょうは貴重なお話をありがとうございました。

結核はかならず治せる、という体験談、結核の治療をして、

「ふつうのことがふつうにできてうれしかった」とか、ドッ

ツをして「ひとと話せるようになった」という意見が

印象的でした。

安江

倉田

友田

石川

## 山谷地域における結核対策の促進－NPO での試行

山下眞実子、武笠亜企子  
NPO 法人訪問看護ステーションコスモス

目的：国内でも結核罹患率が高い山谷地域において、結核対策を推進するため、NGO/NPO としての役割を模索し、幾つかの試行を行う。

方法：

- ① 城北労働福祉センターにおける健康相談を実施し、結核の早期発見や診断に関する検討を行う。
- ② 地域で働くヘルパーや看護師、NGO/NPO のスタッフ等の関係者を対象に、結核に関する学習会を実施し、それらを通じた結核対策の推進の可能性を探る。

期間：H19 年 9 月から

結果：

- ① 健康相談に関する成果は別紙参照
- ② 平成 20 年 2 月 13 日に結核に関する一般知識や山谷地域での結核の状況を説明し、今後の活動を話し合う学習会を実施した。地域で働く NGO や NPO のスタッフ、及びヘルパーや病院で働くスタッフ 50 名が参加した。彼らは結核に関して十分な知識がない人々が多いことも判り、彼らへの教育の必要性が察しられた。

研究成果の発表方法：結核病学会等で発表予定

今後の予定：結核治療者と山谷地域の支援者との学習会を促進し、ストップ結核山谷(仮称)などの山谷地域から結核をなくす運動の契機をつくる。

(別紙)

山谷地域における結核健康相談  
—結核患者の早期発見・早期治療のための試行—

武笠 亜企子（特定非営利活動法人訪問看護ステーションコスモス）

【目的】山谷地域周辺（台東区・荒川区・墨田区）の結核発病率は国内でも高率と言われている。特に路上生活者の結核発病者は重症化して発見される事が多く、死に至ることも稀ではない。山谷地域に居住する労働者への統括機関である、財団法人城北労働・福祉センターと協力し、健康相談を実施し、結核罹患者の早期発見・早期治療につなげる働きかけを行ったので報告する。

【方法】2005年4月より2007年9月まで、城北労働・福祉センター1階よせば部分を使用し、健康相談を実施した。また、山谷地域一帯178件の簡易宿所に巡回健康相談を実施した。そこで、結核の症状を疑う人は、城北労働・福祉センター2階健康相談室に依頼し、レントゲン撮影を実施し罹患者は病院につなげる働きかけを実施した。

【結果】簡易宿所での巡回健康相談は、相談のべ数1815件内結核罹患者は0人であった。よせば健康相談は、相談のべ数3347件すべて男性であり、平均年齢は59.6歳、大部分の相談者は路上生活者であった。3347件の相談の内、結核疑いのある29人は、城北労働・福祉センター2階健康相談室にて、レントゲン検査を実施した。5人が結核陽性と診断され入院治療につながった。5人中2人は入院後1週間程で自己退院しており、その足で、よせば健康相談に再来所したため説得し、再入院へつなげた。

【結論】今回の活動の中で、結核発病者を5人発見した。路上生活者にとって、入院生活は、制限を受ける事が多く、かなりの抵抗を感じている人が多い。そこで、健康相談という活動を通して人間関係を構築し、治療の必要性を説明できることは、入院生活の支えになる事を実感した。城北労働・福祉センターと協力し、結核疑いのある人をレントゲン検査できる環境があるため、今後も健康相談を通じ、結核発病者の早期発見、早期治療に結びつける事ができる。今後も健康相談等の活動を継続し、結核患者の発見・治療への取り組みを強化していきたい。

（本報告は第83回結核病学会総会にて発表予定である）